

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年 7月5日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4672700137
法人名	医療法人椎原会
事業所名	高齢者グループホーム椎原館
所在地	南九州市川辺町中山田1888番地 (電話) 0993-58-9391
自己評価作成日	平成26年7月5日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成26年7月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○同一法人の母体病院との連携を密に取りながら月2回の主治医訪問診療、24時間対応での在宅療養の提供など健康管理を行うことで、入居者の方やそのご家族からも安心を得られている。
○大正時代からある医院の一部を改築してのグループホームであり、昔馴染みの場所で隣接する保育園や部落の方との交流を図りながら地域の一員としての生活を送って頂き、入居者の方一人ひとりが笑顔で楽しく生活して頂けるようなケアに努めている。

・ホームは、川辺市郊外にあり利便性もよく、車で10分圏内に大型ショッピングセンターがある。建物は、大正時代の医療機関(有形文化財)を改修しており、系列の医院は現存する文化財のままを使用している。

・地域は、年々高齢化が進行している。週1回医院が開く時は、外来受診された知人の方がホームを訪ねて来られ、入所者との交流がある。

・管理者や職員には、ホームの理念が浸透しており大切にしている。日々のケアの実践や事業所の取り組みが基本となっており、スタッフルームやトイレに掲示され常に意識づけされている。

・法人全体の研修会、事例検討会など計画されており、外部研修会への参加も積極的で職員教育の拡大や資格取得にも力を入れている。母体が医療機関であり、24時間の医療連携が図れるため、利用者や家族の安心につながっている。

・運営推進会議では、地域密着型サービス事業所の活動状況、利用者の状況、外部評価結果と改善の取り組みについて報告があり、これについて助言、アドバイスなどをもらい、地域との交流促進に努めている。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ．理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域の中のグループホームであること、入居者に寄り添う介護を行うことを理念に盛り込みトイレ、スタッフルームと必ず目に止まる場所に掲示し、常に確認できるようにしている。	理念は、事務所やトイレなどに掲示され、朝礼で唱和して事業所で働く一人ひとりが、理念を理解し具体化して意識的にケアに取り組んでいる。しかし、地域の様相が変化し地域交流が希薄になりつつある。	日々のケア実践と理念との整合性を職員と今一度検証して、利用者の暮らしがホームで完結することがないよう今後の取り組みに期待したい。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、自治会長に運営推進委員会に参加頂き、ホームや入居者の状況を報告している。またホームに行事に地域の方を招待し踊りなど披露して頂いたり、隣接する保育園とはお互いの行事への参加による交流を図っている。	地域社会との交流促進をホームの理念に掲げ、日々のケアに取り組んでいるが、入所者の高齢化や重度化、地域が疲弊してきているため、保育園児との交流やボランティア（竹笛）の来訪などはあるが、普段の行き来や近所付き合いが思うようにできていない。	市担当者や民生委員、自治会長、老人会々長など運営推進会議のメンバーを中心に、よりよい社会交流が図れるような改善への取り組みに期待したい。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	行事の参加を通して地域と認知症の方との交流の機会は設けているが、認知症ケアへの理解を図ったり、地域の中の認知症介護への協力など具体的な実践はできていない。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政や家族、地域からは民生委員、老人会、自治会からの参加を頂きホームや入居者の状況など報告し、様々な意見など頂いている。その意見を反映しながらより良いサービス提供ができるよう取り組んでいる。	市担当者、民生委員、老人会長、自治会長、家族代表などのメンバーには、取り組み状況や事業所の課題や報告などし、メンバーから助言やアドバイスをもらい、質疑応答するなど活発な意見交換があり、日々のケアに活かされている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員会には必ず市町村担当者に参加頂き、事業所の状況報告や市町村からのグループホームや認知症ケアの情報など頂いている。また必要時には連絡や相談を行い助言などももらっている。	市担当者とは電話での相談や指導、助言を受けることが多く、運営推進会議にも毎回出席してもらい協力体制を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回法人事業所が集まっての身体拘束委員会に参加し、それを基にしての勉強会を行うことで身体拘束への意識や理解の向上、日々の介護の振り返りを行いながら、身体拘束のないケアの実践に取り組んでいる。	玄関は施錠せず自由な暮らしを支援しており、法人の身体拘束委員会の研修会への参加やホームのカンファレンスなどで言葉や利用者の気持ちを押さえつけることがないようケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアにおいては職員相互に注意し合い、必要に応じて毎月のケアカンファ中の検討を行い、虐待防止に努めている。またケアカンファの中で年1回は虐待防止法についての勉強会も行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月のケアカンファレンスの中で年1回権利擁護の制度についての勉強会を行っている。必要な利用者については管理者が中心となり支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書にそっての丁寧な説明を心掛け、不安や質問にも十分に説明を行い理解、納得の上で同意を得ている。改定時にもその都度説明し同意を得るようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者からは日々の関わりや言動の中から、家族からは面会時などに希望や要望を伺っている。出された意見については全職員で検討し、必要に応じて運営推進委員会でも意見を頂くなどして、毎日のケアや運営に反映できるように取り組んでいる。	利用者には、日々のケアで意見や要望を直接聞くようにしている。自分の自身の意見が思うように表出できない方には家族に代弁してもらったりしている。家族には、面会時、電話や手紙などで意見交換し、出された意見など運営に活かすようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員からケアや業務を行う上での要望や意見を随時聞くようにし、必要時にはケアカンファレンスでの検討を行い、業務の見直しなど行っている。	管理者や職員は、ケアカンファレンスの中で業務改善など見直しを検討している。食事に時間を要する利用者が増えてきたことで、遅番を採用し業務の見直しや勤務体制を変更するなど常に意見交換をおこないサービスの質の向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の勤務状況など把握し、賞与の査定に反映するなどして、個々の職員が向上心を持って働けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回法人での勉強会や外部機関、県や地区のグループホーム連絡協議会での研修会へ積極的参加を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や地区のグループホーム連絡協議会の研修会や、南九州市グループホーム交流会の参加による他事業所との意見や情報の交換により、ケアや業務の見直しを検討し、サービスの質の向上を図れるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前は必ず本人との面談、家族や居宅ケアマネからの情報収集を行い、本人の心身状況や不安、願いなど思いの把握に努めている。また入居への安心感や信頼を得られるよう、施設見学や体験入居も行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に必ず面談し、これまでの介護の様子や困っていること、心配ごとなど家族の思いの受容や把握をし、安心して悩みや不安など相談して頂けるような信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いと心身状況を十分把握した上で、必要としているサービスを検討し提供できるよう努めている。また必要に応じて行政への相談や他事業所のサービスの紹介や案内も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や畑仕事、ちまき作りなど就労経験や趣味などから得意な活動を用意し、知恵やアドバイスを頂きながら一緒に行うことで、助け合い支え合い生活している同士であることを感じられる関係作りに務めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の家族や自宅への思いなどは家族へお伝えし、面会や励まし、外出支援など家族にもケアの協力を頂くようにしている。家族との時間を楽しみ、絆を感じて頂けるよう支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	隣接する医院に知人の方が来られた時には面会頂いたり、家族にも協力頂きながら、自宅や知人宅への外出や墓参り、馴染みの美容院や商店の利用など個々の入居者に応じた支援を行っている。	家族と一緒に墓参り、美容院に行く利用者や、自宅に帰る利用者のほか、週1回隣接する医院に通院される友人の方がホームに面会に来られることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が自由に会話したり、楽しく交流できるような時間や場所作りに努めている。利用者同士でもお互いに声を掛け合ったり、励ましあったりする姿も見られている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設や病院に移られた方の面会に行ったり、家族には経過や近況を伺ったりしている。その際に相談などあった場合は、助言や必要な支援を行うようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	外出や入浴、お茶など本人の希望を確認してから行うようにしている。困難な場合は言動や表情から知る努力をしたり、家族に連絡し情報や協力を頂いている。	日々の関わりの中で、本人がどのように暮らしたいか、何をどうしたいかなど理解するためにケースカンファレンスを開催して理解するようにしている。意思表質が困難な利用者には、言葉や表情などから真意を推し測りそれとなく確認し、家族から情報収集し代弁をしてもらっている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の本人や家族との面談による情報収集や、居宅ケアマネから情報提供を頂き把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックや排泄・睡眠の状況、食事・水分摂取量のチェックを行い健康状態の把握に努めている。また言動や表情などの変化から心身状態の変化にも注意し、その時点での現状把握に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族の思いや要望、本人の心身状態の把握、スタッフからの意見を基に課題検討をし介護計画を作成している。毎月のケアカンファレンスにて現状や課題について検討し、必要時には計画の見直しを行っている。	本人や家族には日々の関わりの中で、思いや意見、要望を聞き、反映させるようにしている。アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを実施し現状に即した介護計画を作成している。遠方に居住する家族も多く、管理者はその都度計画書を郵送し説明、同意を得ている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子やケアの実践を個別記録に記入し、スタッフ間での情報共有やケアの反省を行いながら、より良いケアの実践に繋がるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	墓参りや自宅までの外出、家族との面会や電話連絡など本人からの希望には速やかな対応に努めている。家族に協力をお願いしたり、家族が対応できない場合は職員が同行するなど、状況に応じて臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム行事への地域の方の招待や、隣接する保育園行事の招待による園児や地域の方との交流、また地域の商店や美容院を利用により地域の一員としての生活を楽しんで頂けるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、本人の同意を得て母体病院をかかりつけ医としているが、本人の状態や希望に応じて専門医など他医療機関への主治医からの紹介や情報提供を行っている。また家族の付添いが困難な場合は通院の支援も行っている。	母体の医療機関と24時間連絡・連携があり、夜間帯の救急体制、2週間に1回訪問診療を受けている。基本的には、家族同行の受診となっているが、必要な場合は職員が同行するようにしている。また、月1回法人との内部研修で医療の研修に参加しスキルアップを図っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタル確認や排泄などの状況をスタッフ間で共有しており、変化があった場合には看護職員に伝え指示を仰いだり、母体病院に連絡を取り指示をもらったり、受診したりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には本人の心身や生活状況などの情報提供を行い、入院後も面会に伺い病院スタッフとの情報共有により状態把握に努めている。また、医師からも治療状況や入院期間などの説明を随時受けるようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前の面談時に重度化や終末期への方針を説明し、家族や本人の意向も伺うようにしている。心身状態の変化や疾病の悪化があった場合には、家族や主治医との相談を行いながら事業所でできることなど必要な対応を検討している。	重度化した場合や段階に応じて事業所が対応し得る最大のケアについて説明をおこなっている。本人、家族の意向を踏まえ、医師、職員関係者が連携をとり、安心して納得のいく最期が迎えられよう随時意思確認しながら取り組んでいる。管理者は、今後文書化を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の防災訓練時に応急処置法や救急蘇生法などの指導を受けている。また、ケアカンファ時にも応急手当方法などの研修を行い実践方法の確認を行うようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防立会いの防災訓練には全スタッフが参加し、避難誘導方法などの確認を行っている。また運営推進委員会を通して自治会への協力をお願いし、火災などの緊急時には自治会の無線放送での協力要請を行う体制を取っている。	年2回昼夜想定避難訓練を実施し、自治会を通じて無線放送を活用し地域の協力体制を築いているが、管理者は、具体的な支援体制の整備に取り組めるよう検討しているものの、具体性に乏しく地域住民の参加が確認できなかった。備蓄は、水、米、カップ麺など3日分確保している。	地域との協力体制については、具体的に対応し得る人材の確保を検討されたい。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ案内時など個々の入居者に応じた言葉掛けやプライバシーに配慮した声掛けに努めている。大きな声や否定的な言葉掛けなど、職員間でも言葉遣いへの注意を行うようにしている。	一人ひとりの尊厳と人格を尊重して、馴れ合いにならないよう目上の方への言葉使いやケアの声かけなどを意識して支援するよう心がけている。また、居室の扉を開けっ放しにしないようにプライバシーにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりの中で思いや希望を話しやすいようなコミュニケーションを心掛け、毎日の服装やお茶の際のお菓子など、本人に選んで決めて頂く機会を作るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝、食事や入浴の時間など日課については、なるべく本人のペースに合わせるようにしている。余暇時間も散歩や歌唱など個々の希望に応じた支援を行うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	毎日の身だしなみについては本人に任せているが、気温に応じた衣類調整や整容など、必要に応じた助言や支援を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえや配膳、下膳など、本人の希望や力量に応じて行っている。個々の好き嫌いや好みに応じた献立を工夫している。スタッフも同じテーブルで会話しながら、楽しい食事時間となるよう配慮している。	利用者にも皮むき、盛り付けなど調理の手伝いをもらっている。献立は食材をチェックしてその日に作るようにしている。菜園にトマト、きゅうり、ピーマンなど栽培、食卓を賑わせている。誕生会は手作り料理で、また花見には外食を楽しんでいる。個別に外食を楽しんでいる利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に応じた形態や量での食事を用意している。食事や水分の摂取量も毎日チェックし、摂取が少ない時には本人の好きな物を用意するなどして、摂取が進むよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声かけをし、介助の必要な方には義歯洗浄や口腔ケアを行っている。義歯の消毒も毎日行い、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	毎日の排泄チェックなどにより個々の排泄パターンを理解し、それに応じた自立した排泄ができるよう努めている。尿意のない方も定時でのトイレ誘導を行い、トイレでの排泄ができるよう取り組んでいる。	排泄のリズムを確認しながらなるべくトイレで排泄できるよう排泄の自立に取り組んでいる。利用者全員がポータブルトイレを使用しており、昼間は人目に触れないよう工夫している。また、転倒防止のためセンサーチャイムを活用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便を促すような食事の工夫や水分摂取、適度な運動の実施により自然排便ができるよう取り組んでいる。自然排便が困難な方には、主治医に相談し、下剤での排便コントロールを行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	一人ひとりの体調や希望に合わせて行っている。湯温や時間などは個々の好みに合わせ、必要な介助、会話でのコミュニケーションを図りながら安全に入浴ができるよう支援している。	隔日ごとに午後午睡の後から入浴を楽しんでもらっている。入浴剤の活用もあり、湯温や十分なかけ湯をおこない浴槽の出入り困難者に配慮している。また、二人介助で浴槽に浸かり入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠パターンを把握し、安心して眠れる環境作りに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者ごとの薬台帳を作成し、一人ひとりの服薬の内容や目的、副作用を全スタッフが理解するよう努めている。服薬変更後は状態変化に注意し、必ず主治医に報告するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活暦の中から特技や趣味に応じて家事などを行って頂いたり、音楽や雑誌の用意、ドライブや散歩の支援など生活の中で役割や楽しみを持てるよう支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブなど日常的な外出の他、ホームの行事としての外食、自治会や保育園行事への参加での外出を行っている。また家族にも協力頂き、自宅や墓参り、買い物や美容院など希望に応じての外出支援を行っている。	天候や体調に合わせて近隣を職員と一緒に散歩している。年間を通して年2回外出（花見・外食）を計画・実施している。また、管理者が所用で法人医療機関に外出する時などに気分転換のため一緒に出かける利用者もいる。ご近所の保育園の行事に参加する機会もある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	不安解消のため家族の希望で自己にて所持されている方もいる。希望があれば外出時に持参して頂き、希望の品の購入や支払いの支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族や知人への電話の希望があった時にはホームの電話を利用して頂き、会話を楽しめるよう通話の支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂けるようホールや廊下にその月に応じたの装飾、行事の写真、季節の花を飾ったりしている。また調理の音や匂い、適度なテレビの音や人の話し声により、家庭的な雰囲気のある落ち着いた過ごせる環境作りに努めている。	玄関の入り口には、七夕かざりがあり短冊には利用者の願い事が書かれていた。食堂やホールには、季節の花や装飾、利用者の顔写真、行事の写真や作品が掲示してある。トイレ前には、畳敷き長椅子が設置しており、利用者同士の交流の場になっている。調理の匂いや音、人の話声など生活感あふれる家庭的な共有空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人でゆっくり腰掛けたり、入居者同士の会話の場所になるよう廊下に畳椅子を設置している。ホールも食事やお茶以外の時間でも自由に使って頂き、会話をしたり1人で雑誌や新聞を見るなど思い思いに過ごされている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅での生活や家族を感じ、安心して過ごせる空間となるよう家族にお願いし、居室には使い慣れた家具や小物、家族の写真や思い出の品など持って来て頂いている。	病室をリフォームした居室には、一間の押入れがあり、下段にはポータブルトイレがしまっている。スプリンクラーは昨年導入した。エコや高齢者への配慮のため電球は1個にしている。特殊寝台、エアコン、寒暖計が設置しており、遺影、家族写真のほか使い込んだ調度品を持ち込み居心地よい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能に応じて生活動作が安全に行えるよう居室内のベッドや家具、ポータブルトイレの設置をしている。また居室やトイレがわからない方には表示を行い、安全に自立した生活が出来るよう努めている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない